

II 活動報告

2. 多様なキャリアパス

(1) Skilled Specialist

概要

金沢大学では、博士学位を有するポストドク以降に就ける、従来のカテゴリーに入らない職種を越えた職（たとえばヨーロッパの大学で教員と同等な立場で分析等に寄与する立場の研究者など）を創出し、安定的な研究者ポストとする試みを始めています。

特に理工系分野で実験室・研究室からの成果（データ）の質に責任を持ち、かつ研究者（学生なども含め）に対して指導もでき、論文を共著で公表する Skilled Specialist (SS) として理工研究域環境デザイン学系、理工研究域自然システム学系にそれぞれ 1 ポストずつ用意し、本事業終了までの約 2 年間を目処に試行しています。

期待される効果

キャリアパスを多様化させることによって、これまで研究職を視野に入れていなかった若い女性を惹きつけ、研究者数増につなげる。また、技術職等の創出は、特に理工系で研究を効率的に進めることを可能にし、成果をあげることに繋がる。

このことは、理工系分野の女性研究者の就職・昇進に貢献し、現在女性研究者が少ない現状を打破する。

Skilled Specialist の定義

Skilled Specialist (SS) は、以下の 2 つの目的のために用意されたポストである。

- 1) 女性研究者を支援するため、高度機器等を使用した分析等に関し研究者と同等のスキルを有し、研究に必要な実験、試料・資料収集等を代行するという研究支援者としての役割をになう
- 2) 女性研究者が取りうる新たなキャリアパスを創出する

SS が行う業務は以下のようなものである。

- 1) 高度機器等を使用した分析や高度な技術を要する実験および試料・資料収集及びその指導
- 2) 女性研究者支援によって得られた成果の取りまとめと公表（学会発表，論文公表等）
- 3) SS としてのスキルアップ（文献調査，研修，講習会への参加等）
- 4) その他 SS として必要な業務（女性研究者支援への協力など）

金沢大学における高度専門技術職（SS）の試験的運用

本学の女性研究者支援モデル育成事業「やる気に応えます 金沢大学女性研究者支援」では、女性研究者の新たなキャリアパスとして、Skilled Specialist という職階を提案し、試験的な運用を行いました。大学における研究者は、常に教育と研究の両立を目指す必要があり、研究者を目指す女子学生にとって教育者になることへの不安感が、理工系の女性研究者の少ない要因の一つとなっていると考えられます。一方、大学における研究はますます多様化、高度化し、教員だけでは分析や解析を行うことが困難となっており、教員とともに研究を遂行できる高度なスキルと能力を備えた技術者の必要性が高まっています。本事業では、そのような高度技術専門職を Skilled Specialist (SS) と名付け、女性研究者の登竜門として位置付ける試みを行いました。

本事業で定義する SS とは、通常の博士研究員のように研究テーマが与えられた職ではなく、従来の技術専門職員のように機器の操作を行う職でもなく、教員と同格に研究を遂行する職と定義しています。また、将来的には、女性専用の職ではなく、男性でも可能な職ですが、当面は女性研究者の増加のために運用する職ともとらえています。

本事業によって2つの SS ポストを設定し、3名を採用しました。そのうち1名は他大学の助教として採用され、教員として道を歩み始めており、1名は博士研究員として研究を継続する予定です。また、1名は在職期間中に、アリゾナ州立大学に研修に行き、そのスキルをアップし、それを活かして研究成果を上げています。一方、本事業では、SS は女性研究者の支援をしながら、その女性研究者をキャリアモデルとして成長するという位置づけも設定しており、女性教員、SS とともに、研究業績を上げる結果となっています。

本事業によって、高度技術専門職である SS は大学にとって有用な職であり、特に、女性研究者養成には、非常に有用なポストであると結論づけることができました。今後、このようなポストの創設に関する議論を継続していく必要があります。

金沢大学理工研究域長
山崎光悦

◎Skilled Specialist からのコメント



平成 22 年度は Skilled Specialist としての 2 年目の年でした。私の職務は自然システム学類 生物学コース 生態学研究室でのサポートです。

今年度の業務内容としては、従来紙ベースで管理されていた生物学コース共用の会議室や機材の予約をオンライン化するため、専用の CGI プログラムを作成し学内 Web サーバへ設置、コースの予約システムとして構築・運営を行いました。また生態学研究室では、都野展子准教授が担当している学生を対象に、主に水田に生息する水生生物の群集構造の研究をすすめるための、現場調査、解析、プレゼンテーションなどについての指導をおこないました。研究室の学生は約半分が留学生であり、異文化交流に不慣れな日本人学生をフォローする意味でも、私の青年海外協力隊・国際連合・その他各種研究機関における海外諸国での現場経験を、それなりに活かすことができたのではないかと考えています。

ここでの経験を今後キャリアにどのように活かしていくかが今後の課題です。
(Skilled Specialist 阿部眞由美)



私は、一昨年 3 月から Skilled Specialist として約 2 年間理工研究域環境デザイン学系において、排水処理装置や環境中の微生物の群集構造解析を担当してきました。最初は、それまで行っていた実験対象が異なり、戸惑うことや難しさを実感することもありましたが、環境デザイン学系の先生方のおかげで、研究成果も少しずつ上げることができました。また、今年度は 10 月から 2 か月間、念願のアメリカ留学を果たすことができ、とても充実した 2 年間で過ごすことができました。今後も SS で身につけたこと

を活かして少しずつスキルアップしたいです。

この 2 年間、教員や技術職員とは異なる立場、SS として研究を行い、少しずつ成果を上げることができ、実験が好きな私にとって有意義でした。研究者を志す人にとって SS のような新たなポストが作られ、選択の幅が広がることはプラスになるのではないかと思います。(Skilled Specialist 中木原江利)

(2) 研究パートナー制度

<募集要項>

平成 22 年 9 月 1 日

各位

男女共同参画キャリアデザインラボラトリー長

「研究パートナー制度による支援を希望する研究者の募集について」

文部科学省の平成 20 年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業において、本学が提案した「やる気に応えます 金沢大学女性研究者支援」が採択され、男女共同参画キャリアデザインラボラトリーが設立されました。本事業は、女性研究者が積極的に研究を継続し成果をあげるための研究環境整備、次世代女性研究者を魅了するためのキャリアデザインの創出、その他女性研究者を育成するための啓発・広報活動等を実施するもので、これらの実施により、真の男女共同参画の第一歩である女性研究者数の増加を目指します。

つきましては、本事業の一環として、「研究パートナー制度による研究者支援」を実施します。今期より新たに育児休業を取得した男性研究者の申請も可能となりました。支援を希望する研究者は、別紙の申請書、および、研究パートナーの履歴書・学歴証明書（卒業証書のコピーでも可）を平成 22 年 9 月 14 日までに男女共同参画キャリアデザインラボラトリーへ提出願います。

記

研究パートナー制度による研究者支援の概要

研究と出産・育児、介護等を両立して研究活動を行う女性研究者、研究と育児を両立して研究活動を行う男性研究者に対して、研究データ解析、学会発表資料作成、実験補助、文献調査、統計処理等の研究補助業務を行う研究パートナーを派遣する。派遣するパートナーは、研究者希望の大学院生、ポスドクなどの研究者候補者、リスタートを希望する元研究者等とし、研究者、パートナー双方の支援をめざす。

支援内容 研究パートナーの派遣

申請資格 本学の女性研究者（教員、非常勤研究員等）

育児休業を取得して 10 年以内の男性研究者

注）：育児・介護などに多忙な研究者を優先します。

全学的な取り組みであり、専門分野を問わず募集します。

パートナーは女性に限ります。

支援期間 平成 22 年 10 月中旬～平成 23 年 3 月 31 日

申請書の提出方法 申請者は、E-mail 等で男女共同参画キャリアデザインラボラトリーに利用申請書（別紙 1）および履歴書・学歴証明書を提出願います。

研究パートナーの条件

推薦するパートナーの人数は、原則として1名、博士前期（修士）課程所属の大学院生は対象外とします。

申請者は、次の雇用条件を研究パートナーに説明し、本人の了承を得た上で、申請願います。

（雇用条件）研究パートナーの勤務時間は週15時間程度を上限とし、報酬は時給1,400円（大学院卒の場合）、1,240円（大卒の場合）とします。

成果報告 採択者には、支援期間終了後、実績報告書（別紙2）を提出していただきます。

◎関係書類提出先・問合せ先

男女共同参画キャリアデザインラボラトリー TEL : 076-234-6905~6907 FAX : 076-234-6908 E-mail : cd_lab@adm.kanazawa-u.ac.jp 担当 : 俵, 糸野

<別紙1>

平成 22 年度研究パートナー制度利用申請書

平成 年 月 日

男女共同参画キャリアデザインラボラトリー長 殿

研究パートナー制度の利用を次のとおり申請します。

ふりがな 申請者氏名		性別	男性 ・ 女性
所属部局			
職名			
学内連絡先	電話番号： FAX： E-Mail：		
希望期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日 (時間数/週)		
研究内容 (支援を受けようとする研究課題等について記入)			
申請理由 (支援が必要な理由及び支援により得られる効果等について具体的に記入)			
研究パートナーの業務内容及び勤務形態 (研究目的, 業務内容, 頻度, 勤務予定時間, 業務を求めるスキル等について記入)			
研究パートナー候補者として推薦する者 ※当該者の氏名・所属・学歴・研究分野等を記入			
その他, 特記事項等			

<別紙 2>

平成 22 年度研究パートナー制度利用実績報告書

平成 年 月 日

男女共同参画キャリアデザインラボラトリー長 殿

育児・介護等に伴う研究パートナー制度の利用実績を次のとおり報告します。

ふりがな 氏名 :		所属 :	職名 :
研究パートナーの実績等	研究パートナーの氏名	支援期間及び時間数	
		期間:平成 年 月 日~平成 年 月 日 時間:合計 () 時間	
研究パートナーが 従事した業務内容			
研究パートナーの 配置による効果			
本制度の今後の改善 点等			
その他			

研究者パートナー制度利用者

平成 22 年度前期

氏名	所属
關谷 暁子	医学系研究科保健学専攻
東 朋美	医薬保健研究域医学系
日比野 由利	医薬保健研究域医学系
松井 希代子	医薬保健研究域保健学系
毛利 千香	医薬保健研究域薬学系
大藪 加奈	外国語教育研究センター
堀家 牧子	学際科学実験センター
成瀬 智恵	学際科学実験センター
柿川 真紀子	環日本海域環境研究センター
長谷部 徳子	環日本海域環境研究センター
高橋 涼子	人間社会研究域人間科学系
荒木 友希子	人間社会研究域人間社会系
和泉 邦子	人間社会研究域歴史言語文化学系
池本 良子	理工研究域環境デザイン学系
多田 薫	理工研究域自然システム学系
三浦 香苗	留学生センター

平成 22 年度後期

氏名	所属
關谷 暁子	医学系研究科保健学専攻
東 朋美	医薬保健研究域医学系
日比野 由利	医薬保健研究域医学系
松井 希代子	医薬保健研究域保健学系
堀家 牧子	学際科学実験センター
柿川 真紀子	環日本海域環境研究センター
長谷部 徳子	環日本海域環境研究センター
荒木 友希子	人間社会研究域人間科学系
池本 良子	理工研究域環境デザイン学系
多田 薫	理工研究域自然システム学系
三浦 香苗	留学生センター

研究パートナー制度についてのコメント

今年度は上の娘が小学校に入学したため、新しい生活リズムにとまどいながら勤務する状況でした。そのため、研究や講義の準備になかなか十分な時間を割くことができませんでした。研究パートナーの支援によって、滞っていたデータ解析を進めることができたり、講義に必要な資料の収集や印刷などにかかる時間を短縮することができました。また、研究パートナー制度の件で研究パートナーと連絡を密にとることによって、お互いの研究内容について議論をする機会も持つことができました。(荒木友希子)



実験やデータ整理、薬品管理、講義資料作成など細々としたことを、きちんとしていただけなので、とても助かっています。小さいお子さんの子育てをしながら、はつらつとお仕事をされていらっしゃる姿が、頼もしい限りです。時々かわいいお子さんのお話を聞かせていただいて、若いころを思い出しています。(池本良子)



研究パートナーには、実験で得られた DNA 配列のデータ整理や国際塩基配列データベースを使用した配列比較解析、その他、実験準備や機器のメンテナンスなど幅広くサポートしていただいたことから、実験に集中でき、より研究を進められるようになりました。子供もいるので研究に使える時間が限られていますが、研究パートナーの支援により自宅に持ち帰るデータ整理も減らすことができ大変助かりました。（柿川真紀子）



研究パートナー制度を利用することになって以降、実験廃液や試薬、消耗品類の在庫管理などをパートナーに一任できるようになり、煩雑な事務作業に費やされる時間が大幅に減りました。おかげで、研究や教育活動など、教員としての本来業務への時間が以前よりも確保しやすくなりました。もちろん、パートナーは優れた研究者でもありますので、実験の補助ばかりではなく、相談相手としても大いに助けてもらっています。何よりパートナーがすぐ傍でどんどん実験を進めていく姿が私を含め研究室の構成員全員にとってよい刺激になり、研究室全体が活性化されています。これからも研究の良きパートナー、そして良きライバルとして互いを高め合っていける関係でありたいと思います。（關谷暁子）



研究パートナーは、乾式製膜工程シミュレーションの研究テーマで実験、シミュレーションを行っています。また、私のシミュレーションの補助を行ってもらうためにプログラムの解説も行っています。研究室においては、学生の特に生活面での相談役となっており、より円滑な研究室運営にかかせない存在となっております。おかげで、私は、文献調査、論文作成に時間が取れるようになり、さらに子供と過ごす時間が増え精神的なゆとりが増えました。（多田 薫）



研究パートナーの岩内陽子さんには、PCRを用いた遺伝子型解析やマウスの管理を行っていただきました。仕事が正確で早く、私だけでなく研究室全体の仕事をしていただいたので、その能力が認められて10月からは技術補佐員として勤務しています。研究パートナーのおかげで研究計画や論文調査に使える時間が増え、研究が効果的に進められるようになりました。（成瀬智恵）

研究パートナー

環日本海域環境研究センター
准教授 長谷部徳子



研究パートナーには、国際プロジェクト推進に関連して外国人共同研究者との連絡や必要な手続、また試料の輸入手続その管理、実験の補助など多岐にわたる内容の仕事を幅広くサポートしてもらっています。継続してパートナーをお願いしている効果で、最近はパートナーとの連携がスムーズになり、より効率的にサポートを受けることができます。今年は博士・修士・卒業論文をあわせて6人を主任指導し、それ以外にも多くの学生の指導を担当しましたが、なんとか乗り切れたのはパートナーとの連携のおかげだと感謝しています。両親のところにも例年より多く顔を出すことができたのもよかったです。

(長谷部徳子)

研究パートナーの藤森智さんには、細胞培養操作を中心に、分子生物学的な実験を担当してもらいました。本制度の支援を受けたことにより、予想以上に研究が継続して速やかに進み、時間的にも精神的にも余裕が生じ、大変感謝しております。特に、一年間継続して支援いただいたことにより、最初の半年間に研究室の環境に慣れて様々な実験手技を習得してもらったことを、後半の半年間の連携に生かすことができました。

また、藤森さんも、今回の研究員の経歴も生かして来春からの就職が決まり、研究内容や大学院にも興味を持ち始めるなど、貴重な経験となったとのこと。

ぜひ今後とも、このような人的支援制度を続けていただけたらと思います。(東朋美)

研究パートナーには、英語論文の要約、海外での調査研究の下調べ、外国人インフォーマントへのアポとり、英文資料の翻訳、など、主に英語に関係する仕事をしてもらっています。英語論文の要約は、研究会のブログ(「生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会[忘備録] <http://azuki0405.exblog.jp/> 2011.1.20 現在の記事 108 件)に掲載し、英文資料の翻訳は研究会のホームページに掲載しています。その結果、この制度を利用している研究者本人だけでなく、関連するテーマで仕事をしている日本国内の研究者にも情報提供ができていると思います。(日比野由利)



宮野さんが研究パートナーとして来てもらえるようになってからほぼ2年になります。今では簡単な指示を出すだけで、DNA, RNA 抽出, PCR やシーケンスなど、複雑な実験操作を一人でこなしてくれています。3人の子供がまだ小さく、限られた時間の中で仕事を進めていかなければならないので、宮野さんには大変助けられています。おかげでこの2年間の実験結果をまとめることも出来そうです。(堀家牧子)

研究パートナーには、データ入力や資料の整理、学生のレポート提出状況の確認など多岐にわたる内容の仕事を幅広くサポートしてもらいました。他の私しかできないことに時間を費やすことになり、おかげで、研究の時間を確保することができましたし、また学生に実習記録の指導をする時間も取れました。キャリアアップで退職されましたが、良い関係をもつことができました。(松井希代子)

研究パートナーには、主に栽培実験の補助、データ整理をしてもらいました。彼女にとっては、普段行っていない実験に関与したことで研究に対する考え方が広がったように思います。私にとっては、補助してもらった期間が薬用植物園の管理に忙しい時期であったので、一人で行うには困難な実験データを得ることができました。お互いにとって良い結果を得ることができ、研究パートナー制度には感謝しています。(毛利千香)

(3) 平成 22 年度重点戦略経費（研究活性化推進経費（重点研究経費））女性研究者支援

目的：研究と出産・育児等を両立しようとする女性研究者の研究費獲得を大学として支援すること

申請資格：

- ・ 本学に所属し、研究活動を行うことを職務に含む者
- ・ 出産休暇・育児休業等をとって 5 年以内、若しくは、乳児、幼児又は児童（ただし、平成 22 年 4 月時点において小学校 4 年生までの児童とする。）を持つ女性研究者
- ・ 科学研究費補助金の研究代表者として交付を受けていない者（本経費の申請時に交付を受けていない者が平成 22 年度科学研究費補助金に採択された場合は本経費の支援対象外とします。）

募集期間：平成 22 年 3 月 8 日から平成 22 年 4 月 28 日まで

この募集への申請件数：8 件

採択された件数：5 件

所 属	職名	申請課題
医薬保健研究域医学系	助教	H I V-1 感染小児の治療経過に寄与する宿主因子の解明
医薬保健研究域保健学系	助教	ヘムオキシゲナーゼ 1 による血栓形成制御が不育症治療にもたらす効果の解明
附属病院	医員	腹部大動脈瘤進展の機序解明 -アネキシン II ノックアウトマウスを用いた検討-
留学生センター	准教授	ベトナム人日本語学習者の日本語韻律調査と指導法の研究
外国語教育研究センター	准教授	食の文学における環境観の比較研究

(4) 若手女性研究者支援

優秀な若手女性研究者を有給非常勤研究員として雇用します。支援の対象となるのは、次の条件を満たしている場合です。

- ・ 金沢大学の研究室に所属し、研究を継続している無給のポストドクであること
- ・ 科研費などの研究費を獲得していること
- ・ 女性であること

平成 21 年 11 月から制度の運用を開始しました。

- ・ 採用された研究者

平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月 須山知香氏

【本制度についてのコメント】

科研費を獲得し、現在、博士研究員（但し無給）ポストにいます。本制度に採択していただいた期間中は「生活の為の収入」に神経をすり減らすことなく研究に専念できたと同時に、今後とも自分の専門性を活かす進路を選択していく余地が生まれました。かねてより「無給ポストクの過酷さに男女の違いはない」と思っていますが、蓋を開ければ‘実力評価以外の要素’が様々に存在している実状、本制度の意義を実感せざるをえません。